



株式会社 しちだ・教育研究所

株式会社 しちだ・教育研究所

事業内容

胎児～高齢者の能力開発に関する教材開発および制作、通信販売、通信教育、国内、海外の幼児・小学生教室の運営

創業 昭和53(1978)年10月10日

代表者 代表取締役 七田 厚

社員数 77名(男22名 女55名)

本社 島根県江津市嘉久志町2345-5

電話 0852-52-4803

採用エリア(勤務地)

江津市

採用担当者からあなたへ

～人が人としてより良く生きていくために、私たちは創造を続ける～私たちのミッションです。人の成長に関わることに喜びを感じていただける方、そして素直で勉強好き、好奇心旺盛な方を求めています。教育学を専門に学んでいなくても、七田式教育の理解と実践に取り組んでいただける研修制度をご用意しております。特別な知識や経験は必要ありません。また、若手が多い会社であり、さまざまなことにチャレンジしていただけます。



人事課 課長
牛尾 巧さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0855-52-4803

採用直通 E-mail

saiyo@shichida.com

公式サイトはこちら



心を育て、子供の可能性を引き出す
「ほめる」環境の中、自己肯定感も向上

大学で幼児教育を学ぶ中、保育や教育の現場だけでなく、子供の心理や脳の仕組みを研究する道もあると知った。「島根に根差して世界に教育理念を発信していること。心の教育を重視している点が私の想いに合致しました」

0歳児から小学生まで計6クラスの講師を務めるほか、全国の七田式教室の講師への指導、教材制作にも携わる。「子供の可能性の大きさや成長に驚かされる毎日です」。五感が敏感な0歳児の赤ちゃんには、胎内で聞いていた母親の血流に似た音を聞かせたり、目を動かして物の情報を捉える練習をしたりして、子供の力を引き出していくという。

入社後、自身の自己肯定感も向上。「ほめて育てる」という当社のスタイルは社員にも大きな影響を与えている。



研究開発部
関谷 菜々子さん(24)
2022年入社



「認めてほめて」の理念に共感
理系思考を生かし、マーケティング力発揮

しちだ・教育研究所のオリジナル教材は、知育玩具から小学生用プリントまで数百種類。山田さんは、ECサイト運営を通して教材の魅力発信に注力する。「ボタンの色や位置を変えるだけでアクセス数が伸びることも。データ分析をしつつ、多くの人に興味を持ってもらえるよう試行錯誤しています」

兵庫県出身。島根大学では物質科学を学び、アプリ開発やソーラーパネル関連企業などを就職先に考えていた。そんな中、合同説明会で目にした七田式教育に遭遇。「大学で新入生サポートに関わった経験から、『認めてほめて』の理念に強く惹かれて。変化し続ける新技術より、古くから未来まで常に必要とされてきた教育に大きな意義を感じました」。理系思考を生かし、マーケティング力を発揮している。



マーケティング部
山田 尚輝さん(26)
2020年入社



アジア・欧州海外4カ国を担当
次世代担う子供の育成をサポート

学生時代、ルワンダやインドネシアなど海外の教育現場を訪問し、教育のもつ可能性の大きさを実感した。「教育を通して次世代を担う子供を育てるサポートをしたい」。芽生えた想いは、胎児の頃から小学5年生まで受けていた七田式教育へとつながった。「不登校だった中学時代、将来への希望を持ち続けられたのは家族や先生たちの深い愛情のおかげ」

マンマー、イギリスなど4カ国の担当者として、各国オーナーをサポート。文化や言葉の違いに配慮しつつ、七田式理念を伝えている。SNSなどを通じた海外向け情報発信も担当。「中東や南米など遠くの国からもFCや書籍の問い合わせがあります。海外での広がりは今後も進むはず。丁寧に浸透させていきたい」



国際部
山本 若奈さん(24)
2022年入社



1 親やスタッフに関わる大人たちの深い愛情が、子供たちの無限の可能性を引き出し、豊かな人間性を育てていく 2 2023年5月にリニューアルした新社屋 3 社内は開放感あふれるワンフロアで、部署を越えたコミュニケーションも活発だ 4 「人を喜ばせよう」と意識していると皆、自然と笑顔になるのです」と七田社長

株式会社 しちだ・教育研究所

「認めて ほめて 愛して 育てる」
子供の無限の可能性を引き出す

57
LEADING COMPANY

国内外で高い支持を得る
七田式教育プログラム

幼い子供の持つ無限の力に気づき、才能を引き出すことに全力を注ぐ《株式会社しちだ・教育研究所》の教育理念は1958年の創業以来、国内外で多くの共感を得ている。「創業者である父の著書『認めてほめて愛して育てる』は、版を重ねる中で多少、時代に合わせた表現に変えていますが、本質は何一つ変わっていません。子育てにおいて、心の教育の重要性は不変なのだと思感しています」と、七田厚社長(60)は温かな眼差しを向ける。

若き日の創始者、七田眞氏がドイツ人教師の本を機に知ったのが、「才能減法の法則」。子供の脳には驚異の可能性と吸収性があり、その能力は小さい時期ほど大きく、年齢が上がるにつれ可能性が減っていくという法則だ。眞氏は4人の子供たちの育児に積極的に関わり、子供たちは父親と遊びながら言葉や文字をどんどん吸収していった。七田社長は3歳の時、約1カ月でひらがなをマスターしたが、無理強いされた記憶はない。「親が愛情たっぷり接し、豊かな人間性を育むことで子供の可能性の芽が育つのです」

七田式理念に基づいたプログラムは、北海道から沖縄まで232教室で展開されているほか、アジアを中心に世界16の国と地域に拡大。2017年にはイギリスやルーマニアでも新規教室がオープンした。右脳と左脳の力をバランス良く引き出すオリジナル教材は、最新の脳科学や教場からのフィードバックを元に改良を重ね続け、教室教材としてだけでなく、通信教育や家庭学習のアイテムとしても高い人気を誇っている。23年5月、3000坪もの広大な敷地内に新社屋を建設。国内外に七田式教育が浸透している今も、山陰の小さな街角に本社を構えるには訳がある。「やっぱり島根、そして江津が好きなんです」と笑う七田社長。「自然に囲まれ時間が贅沢に流れるこの地は、良質な教材づくりに最適なんです」

今、七田社長が懸念するのが、65年前の創業時にはなかったスマホやキャッシュレス化の影響だ。「リアル体験がないため、レモンや梅干しを見て唾液が出ない子、筆圧がわからない子、金銭感覚が育っていない子が増えています。技術の進歩を生かすためにもアナログ体験の重要性を忘れてはいけません。子供が生まれながらに備え持つ力を引き出す七田式教育は、今後一層注目されるに違いない。